

2021年度 第5回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 8月26日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 38名
- ◇内容 現職教員の単元構想案の相互検討

1. 竹取物語を通じた地域の価値の発見 (真美ヶ丘第一小・6年・総合：蔵前先生)

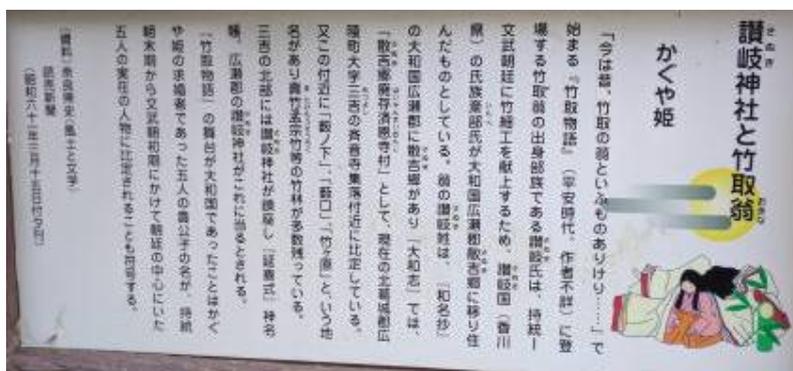
(1) 単元計画の概要

- ①竹取物語 (1000年以上前に作られた話。作者不明だが、万葉集に掲載されている)
クイズ→知っているようで意外と知らないことに気づかせる
- ②竹取物語を調べる 讃岐神社で広陵町文化財課の方・ボランティアガイドの方に教わる
万葉文化館を訪問し、学芸員の方に教わる

広陵町がゆかりの地となっている 竹取の翁—讃岐神社との関係

・竹取翁の出身部族：讃岐氏
讃岐(香川)より、忌部氏が竹細工を天皇に献上するために、移住してきたという説もある。

かぐや姫に求婚する5人の貴公子が持統朝末期から文武朝初期に朝廷に実在した5人の人物に比定する説もある。



問い：作者もわからない物語が、1000年以上受け継がれているのはなぜだろう？

竹取物語に魅力を探そう

調査：地域の人たちは、地域にゆかりのある竹取物語の魅力を知っているのかな？

→ 真美ヶ丘第一小校区は、新興住宅地である。大阪への通勤に便利だという理由で、転居されてこられた方がほとんどで、竹取公園もあって利用したりはしているものの、地域と竹取物語の関係などは知らないと思われる。

・讃岐神社の池に竜のモニュメント 貴公子が探していた「竜の玉」をモチーフに？

→ 保護者や地域の方に竹取物語を知ってもらいたい：真美一かぐや姫プロジェクト

(2) 本単元構想に関する意見交流

①子どもの主体性を引き出す

今の単元計画では「教えてもらう」ことが主で、子どもの主体的な学習となり得ていない

この地域には、竹取物語に関係するモニュメントが散在しているが、子どもにも地域の方にもほとんど知られていないという現状がある。子どもが足を使ってモニュメントを探して、マップ化する活動を取り入れるとよいのではないか。モニュメントには竹取物語の場面も描かれているので、写真で撮影し、並べてみることで、モニュメント巡りのコースも作るができるだろう。

②学校間交流への手がかかり

竹取物語とのゆかりを主張する地域は、他にも多数ある。それらの学校と万葉文化館学芸員を交え

て交流学习することで、子どもの意欲も高まると思われる。

③学習内容と学年進行について

古典を学ぶのは中学校からなので、どの程度内容に踏み込んだらよいのだろうか。万葉文化館の学芸員とよく打ち合わせして、古典文学への関心を高めるようにしてほしい。

④アンケートについて

コロナ禍のため、直接アンケート調査をするのは困難である。保護者や地域住民を対象に、グーグルフォームなどを活用して、非接触型のアンケート調査を行う。発信の仕方にも考えていく必要がある。

アンケート内容を子どもに考えさせるのもよい。もともと地域教材は、子どもの関心を高める効果があるが、+ワンアクションで更に高めることができる。

ここから2グループに分かれてのブレイクアウトセッション

ブレイクアウトルーム① 奈良教育大学 大西 浩明

2. 「みんな生きている」・・・福住学と合わせて（2年生生活科：天理市立福住小中学校 永原智子）

（1）単元展開の概要

- ・福住の豊かな自然を実感させたい → いろいろな生き物をできるだけ見つけさせたい
- ・今年から小中学校になって、福住以外の地域から通っている子どももいる
- ・運動場、水路、家の近くで生き物探しをし、場所によって見つかる生き物が違うことに気付かせる
「なぜに見つかる生き物がちがうのか？」 福住の水のきれいさに気付けるのでは
福住にはいない生き物を持ち込ませないよう、指導もしていきたい
- ・2年生段階でどこまで理解できるものなのか、これでは少し難しい気がしている

（2）本単元計画に関する意見交流

- ・「豊かさ」には、たくさんいることと、いろいろいると両方ある。福住はどちらも気付けるのでは。
- ・アメリカザリガニやアカミミガメなど、汚い水に住む生き物は福住にはいない。それだけ福住の水はきれいだということが気付けると思う。
- ・ただ見つけるだけでは実感できない。見つけた生き物や数を地図に表すなどして「見える化」することが大切だと思う。
- ・外来生物を持ち込まない大切さについては、ぜひ指導してもらいたい。
- ・生活科は活動を通して「自ら気付く」ことが大切で、そのためにも「見える化」することは大切。教科としての生活科として扱う部分、福住学として扱う部分を明確に教師が持つておくことが重要。

3. 「わたしたちの住んでいる奈良県」ー地域の資源を保護・活用している地域 奈良市ー

（4年生社会科：天理市立福住小中学校 藤田桃子）

（1）単元展開の概要

- ・奈良のシカを取り上げる → 奈良のシカについて様々な側面から調べさせたい
「奈良の人々はシカとどのようにくらしているのだろうか」を中心課題に
- ・観光資源としてのシカが奈良の人とどのような関係にあるのか
もう一つ、自分の中で方向性が定まっていない

（2）本単元計画に関する意見交流

- ・この単元の目標や内容から見て、中心課題は違うと思う。「奈良市ではシカをどのように保護・活用して町づくりを進めているのか」などのようになるのでは。

- ・そのために導入をどうするか。コロナ禍の観光客減少によって多くのシカが道路や街中に出てきていることや、「シカ飛び出し注意」の道路標識、みやげ物やキャラクターにシカが多く使われていることなどは使えるかも。
- ・近くの小学校ではシカが侵入してきて育てている植物を食べたりしている。こういうことは聞いてみないと分からないことでもあるので、奈良市の小学校と交流するとよいのでは。
- ・奈良の人にとってはシカがいるのが当たり前であって、それを観光資源としてどのように活用しているかを調べたり考えたりするのがこの学習であると思う。
- ・福住でもシカが農作物を食い荒らす被害がある。奈良のシカも同じ野生のシカであり、同様の被害が深刻で捕獲も始まっている。どのように共存していくか考えることも大切な視点ではないかと思う。

ブレイクアウトルーム② 奈良教育大学 中澤 静男

4. 梅干し作りから地産地消を考えよう（平群中学校2年生・家庭科：井阪先生・教職大学院M1）

（1）単元計画の概要と意見交流

- ・食べ物に関する課題意識にゆさぶりをかけたい
- ・校務員の〇〇さん（生徒から信頼のある人物）からいただいた校内の梅の木から採れた梅の実「梅干しを作ってみよう」
- ・梅干し作りに必要な材料を調べる。（塩と赤紫蘇、焼酎）
 - 販売されている梅干しには、安さや手間を省くために、本来必要のない保存料や添加物が含まれていることに気づくだろう
- ・作り方、歴史、梅干しの効用を調べる。
 - 疲労回復、抗菌作用
 - 梅酢 防腐・食中毒の予防、抗ウイルス作用、血圧抑制、がんの予防
消毒、掃除、」おにぎりの手水、など多数
- ・「本当の梅干しを食べてみたい」という気持ちが高まる
- ・食育推進協議会に方と一緒に作ってみよう スキル・ポイントを学ぶ
- ・試食ーホンモノにふれる満足感
- ・地元の食材をつかって食べる体験
- ・地産地消のよさを考える（消費者・生産者・地域社会・自然環境）
知識構成型ジグソー法を用いることで、多面的・多角的思考を育てる
近江商人の「三方よし」から「四方よし」へ

5. 「みのむしのうた」をもちいた小学校低学年音楽科（柚木先生・大学院M2）

（1）単元展開の概要と意見交流

- ・音楽とESDの関係
 - 音楽から「音楽の多様性」のよさに気づくことができる
 - みのむしのうたを教材にすることで身の回りの生き物の有限性に気づく契機となる
（みのむしは絶滅危惧種でもある）
 - みんなで頑張るといい歌になるという経験から連携性を大切にする態度を養うことができる
 - 「みんなですると楽しい」という経験がコミュニケーション力の育成にも効果がある
- ・本単元の目標と中心発問

- ・この歌を通して、子ども達はミノムシを見つけてみたいという心情を高めるだろう。自然環境への関心を高めるという意味でも、優れた教材である。
- ・一方、中心発問が知識中心になっている。子どもの発達から考えて、よさを感じるという程度でいいのではないだろうか。